

ご近所の お医者さん

□
648
□

かわベクリニック院長

川邊正和さん

—東大阪市

人生の最終段階を自宅で

私たちは、人生の最終段階をご自宅で穏やかに過ごせるよう支援する在宅療養支援診療所です。開業して約8年、その間に多くの患者さんのお見送りをさせていただきました。

突然ですが、皆さんは「ところが落ち着く場所」を思い浮かべられるでしょうか。「ここにいただけでいいよ」と言ってもらえる「居場所」はありますか。安

心感、人生の最終段階を迎えた方だけでなく、誰にでも必要なものですが、失われている気がします。私は医療・

介護職だけでなく、地域の皆さんとともに、おののの強みを生かすことで、安心できる「居場所(空間)」を取り戻せると考えています。そこで世間話、医療や介護の話、財産の話、時には葬儀など縁起でもない話、つまり人生会議が繰り広げられる。家族など大切な人に自分の希望を伝える機会を地域全

体で進められれば、孤立防止にもつながります。地域共生社会の第一歩は、ちょっとしたおせっかいができる居場所・空間に変えていくこと。医療・介護も重要ですが、財産や相続、住宅や娯楽、買い物などの日常生活……。これらを仕事とするさまざまな専門家の力を結集すれば、きつと実現は近づきます。



町全体で「居場所」作り

そればかりかけつくりです。2018年から活動している東大阪プロジェクトで、「まちカフェ」と題して、高井田地区(東大阪市)でシンボリックな建築物である藤田珈琲さんで職種を問わず参加できるカフェを開催しました。ふらっと「まちカフェ」に立ち寄ることで、自然といろいろな職種の方と顔の見える関係を築く。訪れる目的は何でもよく、コーヒーを飲んでのんびりしたいだけでも構いません。この

の安らぎや支えを感じる場所・空間をつくることから始めています。地域の役割の一つとして、在宅訪問診療の存在を知っていただきたい。そして患者さんが望むところで最期まで過ごせる地域、豊かな社会をつくりたい。自然とお互いに気軽に相談できる誰もが主役の街を目指し、自然と顔の見えるような関係を築いていきます。

居場所をつくるために必要なこと、

(府医師会介護高齢者福祉委員会委員)